

<b>タイトル</b>	H29 年度 教育学部入試 生活健康系 保健体育 推薦入試 (小論文、面接)
<b>評価の ポイント</b>	<p>&lt; 推薦入試 &gt;</p> <p>小論文問題—評価の観点 保健体育領域に関する総合的な思考力、問題発見および解決能力等を評価した。評価に 当たっては、次のような点を特に重視した。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 内容性 (記述内容の正確さ、発想の豊かさ等)</li><li>・ 考察力 (考察の深さ)</li><li>・ 論理能力 (論旨の明確さ)</li><li>・ 文章表現能力 (文章表現の豊かさ、正確さ)</li></ul> <p>面接—評価の観点 教育や保健体育に関する基本的知識や総合的な思考力等を評価した。評価に当たっては、 次のような点を特に重視した。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 基本的知識と理解度</li><li>・ 論理性</li><li>・ 表現力</li></ul>

## 【小論文 解答例】

これまで「健康」について意識したことがあまりなかったが、高校での保健の授業を通して「健康」について学んできた。健康の考え方は、「病気ではない状態」という消極的な捉え方だけではなく、WHO憲章で定義された「身体的、精神的、社会的に完全に良好な状態」との積極的な捉え方があることを学んだ。健康は、さまざまな要因の影響を受けているが、その要因の1つに「生活習慣」がある。生活習慣の基本は、食事・睡眠・運動の3つのバランスが大切であり、規則正しい生活を送ることが「心と体の健康」に重要である。このことを学び、その後は規則正しい生活を意識してきた。

また、体育の授業を通して、「運動」をすると技能が高まり、体力も高まることを実感するとともに、仲間と励まし合い、協力しながら運動に取り組むことによって、目標を達成したときの喜びや達成感は格別であり、運動することの楽しさを経験し、学んできた。

これらの学びから私が体育教師になったときには、子どもたちに「3つのバランスのとれた規則正しい生活」の大切さを教えるとともに、「運動することの楽しさ」を伝えたい。子どものときに体力・運動能力を大きく発達させることが、大人になってからの体力・運動能力を保つことにつながる。大人になってからの「健康」を考える上でも、子どもときの運動は欠かせない。子どもが運動に親しむ環境・習慣づくりにも力を入れていきたい。